

.....
患難時代に成就する事が起こり始めている/エゼキエル 38 章が起こり始めている

今日の預言アップデートに入る前に、第二テサロニケ 2 章 3 節の、“背教”または“立ち去る”の訳に関して、私の間違いを訂正しなければなりません。私がこれまでずっと教えて来た、この箇所の中の自分の解釈が、間違っていた事に気づきました。今、私のとても尊敬するキリストにある兄弟、姉妹が、私にこれを気づかせてくれた事に心から感謝します。

今回、私が至った結論は次の通りです。パウロは、第二テサロニケ 2:3 では、肉体的に立ち去る「携挙」を意味する「harpazo」ではなく、「apostasia」という言葉を用いていて、これは“反逆”とか“(信仰を)捨てる”という意味、もしくは「霊的に」“立ち去る”事を意味しています。私は何年もの間、これを肉体的に「立ち去る」事だと教えて来ましたが。

もう一つ、最近、Gary Stearman の番組 Prophecy Watcher の中で、Andy Woods がとても興味深い主張をしていました。Tomath Ice 博士が、私と同じように、これは肉体的な携挙だと教えていて、私も彼の側に立っていたのです。しかし、もし、これが肉体的な立ち去りである「携挙」なら、パウロは霊的な立ち去り、信仰から逸れていく事を意味する、「Apostacy」ではなく、「Harpazo」という言葉を使っていたらという事を、私は認めなければなりません。

これによって、混乱させてしまった方々には、心からお詫びします。特に私が深く心配しているのは、この第二テサロニケ 2:3 に関する“対立”を利用して、私たち、患難前携挙を信じ、教える者に敵対する人たちがいる事です。これが最近、サタンの厳しい攻撃を受けているのです。信じがたいほどです。私が「サタンの」だと言ったのは、“混乱の神”とは誰ですか？（第一コリント 14:33）“兄弟たちの告発者”とは誰ですか？（黙示録 12:10）“偽りの父”とは誰ですか？（ヨハネ 8:44）悪魔そのものです。YouTube のコメント欄で、我々のように、患難前携挙の健全な神学を教え信じる者に対する、最も卑劣で忌まわしいコメントを目にしています。今から何年も前に、7年の大患難の前に携挙が起こるべき理由について、7週間にわたってシリーズで教えました。患難前に起こるべきなのです。それに関して、また繰り返しお話ししていると、本題に入る前に携挙が起こってしまいますね。

もう一つ、皆さんにお伝えしておきたい事があります。皆さんの忍耐に感謝します。

私の牧師、教師としての資格と資質に関してです。私が正式な教育を受けていない事は、これまでずっと、皆さん全員に明確にして来たつもりです。そうであったと願いますが。私は大学を出ていませんし、ギリギリで高校を卒業したのです。そんな事、自慢にも思っていないですが。神学校も出ていません。また、私はこれまで一度も自分自身を、「聖書学者」だと言った事は無いはずですが。ましてや、「ギリシャ語学者」だとは、絶対に言った事はありません。私は、神を愛し、神のみことばを愛し、聖書預言、それもイスラエルに関する預言に情熱を注ぐ、ただの男です。それどころか、人から「預言のエキスパート」なんて呼ばれるだけで、とても居心地が悪いのです。それは、私の肩書ではありません。ものすごい違和感ですし、私には合いません。私は、自分自身を“預言エキスパート”だなんて見ていません。私は、自分の事を口

バダと思っています。神が、ロバの口を通して語っておられるのです。私は本気でそう思っています。それも、ただのロバでなく、アラブのロバです。どうか、ご理解ください。ロバを通して神が語られた時、他の誰よりも、ロバが一番衝撃を受けたのです。バラムの件で考えてみると、神がその口を通してバラムに語られた、あのロバ自身がどれだけ驚いたか、と私は思うのです。バラム以上に、ロバの方が衝撃を受けていたと思いますよ。バラムも普通に答えたのですから。「今、喋ったか?!」とか、バラムが言ったという記述はありません。「今、喋ったか?!」「ロバが喋るなんて?!」とは言わず、バラムは普通に言い返したのです。きっとロバの方が、「こんな事、信じられない」と思った事でしょう。神が、私を通して語られているのですよ。私は、ただのロバに過ぎません。もし神が、ロバを通して語られるなら、神は、私のような者を通してでも語られるのです。それと、どうぞご理解ください。私はエキスパートだなんて呼ばれたいと思った事は、一度もありません。覚えていてください。この、世界中の人々からなる巨大なオンラインチャーチを、私から始めようなんて、言った事は一度もありません。実際、私は、教会の兄弟から「これを YouTube にあげませんか?」「YouTube にあげて良いですか?」と聞かれて、「ああ、もちろん良いよ。」と答えただけで、視聴数も 8 回ほど、その内の半分は私の家族でした。だから「好きにして良いよ。」と。それが突然、8 回から 80 回になって、それが 8000 回、18000 回、今ではものすごい数になりました。私からこれをしようなんて、一度も言っていません。これは、ただ神が、私のような平凡な男を使って語られているだけなのです。だから、自分自身を預言エキスパートなんて、絶対に思いません。

最後にもう一つあります。これまでも、何度もお伝えしてきましたが、今回も良い機会なので言っておきます。どうか御名さんも、使徒行伝 17:11 に出てくる、ベレヤ人のようになってください。

“ここのユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうか毎日聖書を調べた。” (使徒行伝 17:11)

皆さんも、ベレヤ人のようになって、私の言葉を絶対に鵜呑みにしないでください。同じように、“エキスパート”や“学者”の言葉も、鵜呑みにしてはいけません。彼らのギリシャ語の知識には、圧倒されるかも知れません。私はギリシャ語どころか、アラブ語もやっと喋れる程度ですから。確かに、ギリシャ語をペラペラと話すような大物には圧倒されますよ。私の履歴書を見た事がありますか? 私の履歴書は、空白がいっぱいです。2 行くらいは、記入があると思いますが。私の履歴書は、まさに第一コリントで、パウロが言った通りです。

“しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。” (第一コリント 1:27)

私は、人が私の所へ来て、「神が、あなたのような人でも使われるなら、私のような人間でも使ってくれるはずだ!」と言われるのが大好きです。そう言ってくれてありがとう!! 「私も、そんな風に出たらいいのに。」なんて事は、絶対に言われたくありません。あなたも出来ますよ! ほんとですよ! ただ、ロバになればいいのです。そうすれば、神はあなたを使われます!

預言アップデートに入りましょう。まずは、「いつ戦争がおきてもおかしくない。」と人々が言っていることについて。今の状況がどれほど深刻であるかについて、お話しします。「戦争」と「戦争のうわさ」のドラマは、日毎にそのテンポと、音量を増しているようです。このアップデートを準備している時、「戦争」や「緊迫している」とか、「終わりに近づいている」という言葉が、頻繁に出てくることに驚きました。それも、何より驚いたのは、これらが世俗的な情報源から出ている点です。彼らが、そういった言葉やフレーズを使い始めているのです。「戦争」とかそういった言葉やフレーズが、過去にも用いられていた事は、私も分かっています。それでも、今日の様子は、前代未聞だと言えるでしょう。このようなのは、これまでに見た事がありません。なぜそう言うかと言えば、人類史上、これまで一度も今のような傾向は無かったからです。つまり、全地球上の人類の、3分の1を殺害できる威力を持つ、大量破壊兵器の使用です。

黙示録9章に書かれている事を考えてみてください。9章13節から16節まで読んでみます。これは、7年の大患難の間に起こるといふ事を、どうか覚えていてください。黙示録には、それを理解するための、神によるアウトラインがあるのです。1章は過去、2, 3章は現在、4章1節から22章の終わりまでは、全て将来起こる事です。4章は携挙、6章から19章は7年の大患難。ちなみに、7年の大患難について書かれた、6章から19章の間に、「教会」といふ言葉は何度出てくるか、ご存知ですか？「0」です。ゼロです！1, 2, 3章で「教会」といふ言葉が、何度出てくるかご存知ですか？19回です！黙示録6章から19章の間に、どうしてたったの一度も「教会」といふ言葉が出てこないのか？それは、大患難の時に、教会がそこに居ないからです！では、獣のしるしを受けず、清められた者たちは何なのか？彼らは、教会ではありません。彼らは、花嫁ではない。彼らは、患難時代に救われた聖徒です。その説明が、ちゃんと書かれています。

では、預言アップデートに戻りましょう。

“第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の祭壇の四隅から出る声を聞いた。その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりに繋がれている四人の御使いを解き放せ。」すると、定められて時、日、月、都市の為に用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺す為に解き放された。騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。”
(黙示録9:13-16)

何度も言いますが、これは7年の大患難の中で、最終的に成就する事です。そしてルカの福音書21:38で、イエスはこう言われました。皆さん何度も聞いておられるでしょうが。

“このことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上になげなさい。贖いが近づいたのです。” (ルカ21:28)

主は、何の事について言われているのでしょうか？私が思うに、イエスが言われる「これらの事」とは、7年間の大患難の時に、最終的に成就される事で、それが、7年の大患難の**前**に起こり始める。だから、7

年間の大患難の**前に**、これらの事が**起こり始める**のを見たら、私たちは、自分たちの贖いが近づいているのが分かるのです。これに関する、チャック・スミス牧師の解説と描写が私は大好きで、彼はこう言いました。

彼はある日、奥さんとモールに居たそうです。そこで、彼は奥さんにこう言いました。

「このクリスマスデコレーションを見てごらんよ！！僕は、感謝祭が大好きだ！！」

それに対して、奥さんが言いました。

「クリスマスが好きだと言いたいんでしょ？」

「いいや！僕は、感謝祭が大好きだ！！」

つまり、クリスマスデコレーションを目にし始めると、クリスマス**の前に**、感謝祭がやって来るという事です。だから、世の中が“クリスマス”のデコレーションを始めたら、携挙がまず先に起こるという事が分かります。今は、それほど近いという事です。

そこで質問です。最終的に 7 年の大患難で成就する事が、現在起こり始めていませんか？私は、確実に起こり始めていると主張します。それに関して説明しますので、よくお聞きください。

まずは、木曜日（4/27）の FOX ニュースの報道からです。

——アメリカ海軍の高官が警告。「**北朝鮮の危機は、これまでで最悪だ。**」彼は、北朝鮮の危機は、これまでに無かったほどに最悪で、金正恩がアメリカ合衆国に届く核弾道ミサイルを発射させるのは、時間の問題だと、議員たちに伝えた。——

いいですか？彼はすでに、核を所有しています。彼が“まだ”持っていないものがあります。キーワードは“まだ”です。彼が“まだ”持っていないのは、それを到達させる能力です。それを、彼らは実験しているのです。彼らは、すでに核を持っています。だが、核を送り込む為のシステムが無いだけです。

——金正恩は、どんどん進歩していて、全世界はこれを“深刻に受け止めるべき”だ。なぜなら、ミサイルはあらゆる方向に向けられているのだから。もし、彼の敵への巧言がこのまま放置されるなら、今週、金正恩が名指した、オーストラリアやアメリカのような国への脅しが、現実のものへと移行するだろう。——

ここハワイでは、これらがまず、我々に向けられている事を知っていますね？

——彼の巧言は、一方に向けられ、彼の能力は、彼の巧言に近づきつつある。これらの台詞が現実のものとなると、我々は音調の変化地点となり、目が覚めると、“新しい世界”になっているだろう。——
わお。これが木曜日です。

金曜日の YnetNews の報道では、ロシアの外務大臣代理の言葉を報じています。

——「平壤に対する、いかなる軍事行為も“一切受け入れられない”。」——

これがロシアです。

——それに加えて、闘争的な巧言と共に、無謀な軍事の誇示は、全世界を深刻な状況へと陥れ、現在、ほんの些細な誤解が、最も恐ろしく嘆かわしい結果を生じ得るところまで来ている。——

私の記憶の限りでは、こんな発言を聞いたことがありません。だから前代未聞といったのです。

Ynet Newsによると、

——ロシアは、北朝鮮に対する軍事行為は許されないという警告だけでなく、シリアでの空爆に対してイスラエルを非難。ダマスカス国際空港近郊での、シリアの軍事的搬入に対するイスラエルによるミサイル攻撃を、ロシアが“武力侵略”と呼び、彼らを非難。イスラエルは、シリアでの軍事搬入を（よく聞いてください）“早いペース”で攻撃。彼らは、シリア政権軍と共に戦っている、レバノンの武装グループであるヒズボラに、武器が渡るのを防ぐ権利を維持している。——

“早いペース”です。

次に、イスラエルのシリア攻撃に関して、この Haaretz の分析をご紹介します。これは驚くに値しませんが。しかし驚くのは、「イスラエルの政策の曖昧さが、終息に近づいている。」と言うのが、シリアの混乱と複雑な危機に関する、記者の結論と分析です。まさに、これは混乱で、複雑です。

——イスラエルは戦略的レベルで問題を抱えている。ロシア軍が戦争で成功するという事は、アサド政権の救済と、アサドの味方である、イラン、ヒズボラの利益を意味している。ロシアは、イスラエルの犠牲の上に成り立つ、これらのアサドの味方達の利益を、推進するべきなのか？——

いいですか？彼は、ロシアについて語る中で、リーバマンはイスラエルが引いた新しいレッドラインを強調しているのですよ。

——アサド軍が南部に進む中、イラン軍も、ヒズボラ軍も、ゴラン高原シリア国境付近に駐留しておらず、当初の報道では、イラン革命防衛隊と、ヒズボラと、彼らにかかわりのあるシーア派と、パレスチナ民兵が国境付近、特にゴラン高原北部に到着しているとのことだ。強化する為に、行動に出るべきか？リーバマンがそれについて語る間も、イスラエルは、イランとの摩擦を高める事に重きを置くだけでなく、モスクワとの関係も移行させなければならない。——

これは、エゼキエル38章といえませんか？「先生は、毎週それを言っていますよ。」と言いますか。私がこれを毎週いうには、理由があるのです。それは、私たちが毎週エゼキエル38章の最終的成就に、どんどん近づいているからです。

ところで、7年の大患難時代に成就する事と言えば、エゼキエル38章の最終的成就は、携拳の後で起こると、私は信じています。言い換えれば、エゼキエル38章が、すでに起こり始めているように見えるなら、そして、その前に携拳が起こるのなら、どれだけ携拳が近づいている事でしょう。どれだけ近いのか。だから私は、毎週毎週同じことを繰り返すのです。

さて、摩擦の高まりと、関係の移行と言えば、The Times of Israel と、イスラエルの新聞によると、トランプは5月下旬のイスラエル訪問の間に、エルサレム全域が、イスラエルの首都だと主張するとの事。何！？うそでしょう？！これが、何を意味しているか分かりますか？なんという事でしょうか！これについて、少し説明してみます。

1948年、イスラエルが独立宣言して以来ずっと、アメリカの政策がどんなだったか、ご存知ですか？1948年以来です。それは、いかなる団体も、エルサレムのどの部分においても、その主権を認めてはいけません。そして、トランプは約4週間後のイスラエル訪問で、部分的に認識するだけでなく、全てを認

識するのです。もし、この前代未聞でまだ足りないなら、次のこれはどうでしょうか。歴代アメリカ大統領で、就任初期にイスラエルを訪れた人は一人もいません。一人もです。親イスラエル派だった、レーガンでさえも。大統領就任初期に、イスラエルを訪れた大統領は、一人もいません。興味深いですね。この前代未聞でも、まだ足りませんか？まだありますよ。こちらをよく考えてみてください。アメリカ大使館をテルアビブから、エルサレムに移すという、選挙公約をトランプは守るかどうかがとの質問をよく受けます。彼はあちらを訪問中に、エルサレム全域を、イスラエルの首都であると認識します。皆さん、ご想像の通り、これには議論満載です。その証拠に Times of Israel が、出どころ不明の一面記事を引用しています。

「トランプは、訪問中に大使館移動の公表をしない。」

一つずつにしていきたいと思いますですからね。考えてみてください。エルサレム全域を認識するのですよ。ところが、それは木曜日の事で、昨日、Times of Israel は、その続編を出版しました。

——トランプは、来月のイスラエル訪問中に、大使館をテルアビブからエルサレムへ移動させるかについて、コメントを控えている。しかしながら、彼は”その時に”その問題について明確にすると示唆した。しかし、ロイター紙によって、移動について質問された時にトランプは、「一か月後に聞いてください。」と報道記者に答えた。——

彼、良いですよ。向こうに着いてから考えるから、その時に聞いてよ。」とでも言っているようです。これは、本当に面白いと思いますが、さらに面白いことがあります。これは、ただ単に議論を呼ぶだけでなく、ある人が言うように、彼が大使館を移動させる事で、第三次世界大戦に火が付く可能性があるのです。これは、とても象徴的となり得るのです。「エルサレムは、イスラエルの首都だ。」という事が、象徴的なジェスチャーとなりますが、もし、彼が大使館を移動させるとなると…。「青いバナナは買うな」と言うておきます。何故かと言えば、それが熟れる時、皆さんはここに居ないでしょうから。

さらに面白いのが、Times of Israel が報道したのは、和平協議が成立しないことに対する、トランプのイライラです。よく聞いてください。

——トランプはまた、イスラエルとパレスチナが、いつまでも和平協議に同意しないことに対して、「しつこく対立する理由がない」と言って、イライラを露わにした。「イスラエルとパレスチナ間の平和を見たい。」トランプは言います。「イスラエルと、パレスチナ間に平和が成り立たない理由がない。まったく理由がない。」——

理由はありますよ。もちろんあります。

——トランプは、何十年にも及ぶ対立を終わらせるよう、仲介として働きかけると言い、彼のビジネス的洞察から、平和が”最終的に成立する”と何度も言った。——

これは、ダニエル書 9：27 ですよ。それと、彼の娘婿であるジャレッド・クシュナーは、とても興味深い男です。私は、「あの男から目を離さない。」と言うておきます。その理由はこれです。トランプは、選挙中に言いました。

「もし、ユダヤ人とパレスチナ人に、平和をもたらすことの出来る人間がいるとすれば、私の娘婿だろう。」自分が何を願うか、気を付けないといけません。ダニエル書 9：27 によると、誰がそれをするか、

皆さんご存知ですよ？

では、最後にまとめて終わりにしたいと思います。

現在、起こり始めている事の全ては、神のみことばの中で、前もって明らかにされています。ヨハネ 13:19 で、イエスが言っておられることをよく聞いて下さい。

“わたしは、そのことが**起こる前に**、今あなたがたに話しておきます。そのことが起こったときに、わたしがその人であることをあなたがたが信じるためです。” (ヨハネ 13:19)

それからイエスは、ヨハネ 14:29 で、基本的には同じことをもう一度言われています。

“そして今わたしは、そのことの**起こる前に**あなたがたに話しまし。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです。” (ヨハネ 14:29)

もっと正しく訳せば、「わたしは、『わたしはある』という者だ。」「わたしは、わたしが『こういう者だ』と言った通りの者だ。」という事を、あなたがたが信じるためなのです。

よく聞いてください。神が言っておられるのはつまり、これからなにが起こるかを、それを起こる前に、主はその御言葉の中で私たちに告げられた。だから、それが起こった時、私たちは信じるのだと。何という事でしょう。聖書には、2500 年以上前に、ブヨの眉毛のレベルまで、預言されていたのです。ええ、ブヨには眉毛があります。ものすごく具体的に。そして、それが起こり始めているのです。ロシア、イラン。また、エルサレムは全世界にとって、よろめかす杯となる (ゼカリヤ 12:2)。それに、ダマスカスは廃墟となる (イザヤ 17:1)。多くの人が、それはイスラエルの手によって廃墟となるのか？と考えています。今では、確かにそのように見えませんか？イスラエルが、ダマスカスを爆撃しています。といっても、イスラエルは人々を爆撃した事はありません。イスラエルはいつも、武器庫を爆撃しているのです。先制攻撃、防衛の為の攻撃です。ちなみに、だから彼らは、『イスラエル攻撃軍』ではなく、『イスラエル防衛軍』と呼ばれているのです。全世界が、イスラエルに敵対する中で、イスラエル国家を『防衛』する為なのです。つまり神は、これから起こる事を、それが起こる前に、その通りに正確に告げられた。それが起こり始めるのを見たときに、私たちが信じるためにです。

そして、質問です。最も重要な質問です。私たちが、答えなければならない質問です。私は、イエス・キリストが主であると信じるか？あなたは、イエス・キリストが主であると信じますか？



これが救いの ABC です。

私は、毎週これをやり続けます。毎週、人々が救われているのです。私の所に、E メールやコメントがどんどん届いて、私がこれをする事に対して、お礼を言うのです。これが、子供にでも分かるほどにシンプルだからです。皆さんには、お許し願いたいのですが、いろんな人が、シン

プルな福音に何かを加えて複雑にしている事に、私はとても葛藤しているのです。私にもかかわる事です。彼らは、このABCに文字を加えようとしますが、私と、永遠のいのちという無償の賜物の間に、何も入れないでください。イエス・キリストが私の為に、十字架の上でしてくださった事で、私に与えられたのです。そして主は、あなたの為に、あの十字架の上で下さったのです。イエスは十字架で「完了した。」(ヨハネ 19:30) と言われました。以上です！「完了した」のです。「もし…なら完了した。」ではなく、「完了した。…しかしながら」でもなく、「完了した。でも…」そのどれでもない。完了したのです。

A=あなたが罪びとであると、『Admit』認める、または認識するのです。私たちは皆、神の完璧な基準に届かないのです。私たちは皆、罪を犯したから。私たちは皆、生まれながらの罪人なのです。だから私たちは皆、新しく生まれ変わらなければならないのです。それをしなければ、誰も神の国を見る事が出来ないと、イエスは言われました。(ヨハネ 3:3) 御霊によって新しく生まれなければ、です。

B=心で『Believe』信じるのです。ローマ人への手紙で、パウロは言いました。

“あなたの心で、イエスが十字架で死に、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、——” (ローマ 10:9)

C=あなたの口で、イエスが主であると『Confess』告白するなら、ローマ人への手紙 10:13 には、こうあります。

“主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。” (ローマ 10 : 13)

“かもしれない”でもなければ、“まだ分からない”でもありません。“多分”でもなく、「あなたは、救われる。」のです。あなたが、自分が罪人であり、救い主を必要としている事を認め、イエス・キリストが主であると信じて、救われるために主の御名を呼び求めれば、何が起るか。それは、神が聖霊を送り込まれ、あなたの中に住まわれるのです。そうすれば、あなたは新しい創造物となり、神の御霊によって、新しく生まれ変わります。そして、聖霊が力をくれ、私たちが聖く生きる事を、可能にしてくれるのです。聖霊が内に宿る事で、私たちは、内側から変えられるのです。救いに至る、イエス・キリストの知識を持つことで、「聖霊が、彼らに“臨む”」。原語では「ep」です。何度も言いますが、私はギリシャ語学者ではありません。原語のギリシャ語をただ言っているだけです。

「あなたに臨む」のです。そして、聖霊の力によって、あなたも聖なる生き方が出来るのです。

祈りましょう。その中で機会を設けますから、これまでに一度も主の御名を呼び求めた事の無い人は、どうか今日、呼び求めてください。

天のお父様、感謝します。何よりもまず、あなたの民の忍耐に感謝します。彼らの注意力、彼らのあなたに対する飢え渴きに感謝します。主よ、私が牧らせていただいている、この素晴らしい教会の中、またはインターネットでこれを観ている人の中に、これまで一度もあなたの御名を呼び求めた事の無い人が居るなら、あなたとの関係が確かでない人が居るなら、彼らが今、ここでそれをはっきりとさせますように。彼らがあなたに全てを捧げ、あなたを呼び求め、罪の赦しを、あなたに信頼しますように。今日、彼

らが救われますように。今日が彼らの救いの日となりますように。イエスの御名によって祈ります。
アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい